

4月号 (535号)

北海道の札幌・江別・北広島の3市にまたがるところに、道立自然公園である野幌(のっぽろ)森林公園がある。ここには、広大な森林にくわえて、北海道博物館、北海道開拓の村(屋外博物館)、そして北海道百年記念塔という鉄塔がある。蝦夷地が北海道となった1869(明治2)年から100年後の1968年、北海道で百年記念事業が実施され、その1つとして、これらの施設の建設が計画された。百年記念塔は、高さが北海道百年にちなんで100mあり、1970年に完成した。ところが、塔の側面の鉄板の一部が落下するなど、劣化が進んだ。2016年から、道は「北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会」を開催し、百年記念塔を含む上記施設の今後のあり方について検討を行った。検討の結果は、「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」として、2018年に公表された。百年記念塔については、老朽化していること、多額の維持管理費用がかかることを理由に、解体撤去が決定された。2022年3月に道議会が解体撤去費に関する予算を可決したことを受けて、道は、同年10月、建設業者との間で、工事代金約5億円で塔の解体工事の請負契約を締結した。同年11月には解体工事が始まった。だが、百年記念塔の入口に掲げられた建立記によれば、「かつて原始の密林を切り拓き、厳しい風雪に耐えぬいて、本道発展の基礎を築いた多くの先人の、想像を絶する辛苦を忘れることはできない」、そうした「先人の偉業を長く後世に顕彰し、慰霊の誠を捧げるとともに、輝く未来を創造する決意の表徴として」、この塔は建設された。開拓の歴史を記念する施設あるいは工作物である。こうした思いが込められた塔が解体されようとしている場合に、これに反対する近隣住民が行政事件訴訟法に基づき何らかの訴訟を提起することができるかどうか、検討しなさい。なお、百年記念塔は文化財保護法上の文化財には指定されていない。地方自治法上の公の施設でもない。自然公園内にあるが自然公園法・条例上の公園施設でもない。